



米作りながら発電も

動く両面太陽光パネル

動く両面太陽光パネルで、米を作りながら発電——。出光興産は千葉県木更津市で、水田に可動型の両面太陽光パネルを設置し、営農型太陽光発電の実証を始めました。稲作期は圃場(ほじょう)への日射を優先してパネルが動きます。発電した電気はグループ会社を通じて一般に販売。農家は地代で収入を得られるモデルなどを検討しています。

約700平方メートルに100枚の両面太陽光パネルを導入します。高さは約3.5メートル、幅は約

6メートル。パネルを水平に固定すれば、下で農機での作業もできます。

4~8月には「稲作モード」として圃場にできる影が小さくなるようパネルが動きます。両面パネルのため、反射光でも発電します。「ふさおとめ」を栽培し、収量や食味に差がないかなどを調べます。

9月~翌年3月は、パネル正面が太陽を向き、発電を優先します。今回の実証での年間発電量は、約8家庭の1年分に相当しま



「稲作モード」の可動型太陽光パネル(千葉県木更津市で)

す。2025年9月まで実証します。協力している生産者は実証中の水田で「生育が多少遅れている」と指摘。「日没後まだ明るい

うちにパネルを水平にすることが影響しているのではないかとし、同社に対応を求めました。

(日本農業新聞 2023年7月31日)

農業技術ピックアップ

生食用青ねぎ収穫の省力化を目指して マルチ剥ぎ同時掘取機を開発

生食用青ねぎの収穫作業は、多くの場合、かがんだ姿勢で鎌を用いて根を切り、抜き取るという手作業で行われています。そこで、収穫作業の省力化を図るため、青ねぎのマルチ剥ぎ同時掘取機を開発しました。

本機は、機体前方の追従輪で畝裾部を挟みこむことにより、巡回・運搬時を除き、作業者がハンドルを操作することなく、マルチ剥ぎと同時に掘取作業を行えます。機体幅(駆動輪の最大幅)1,300mm、全長1,800mm、全高

1,670mm、機体重量343kgで、あゆみ板により軽トラックに積載し運搬が可能で、裾幅1,130mmまでの畝に対応できます。

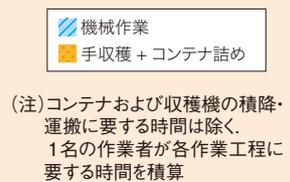
100m(50m×2畦)を収穫する場合、慣行の手作業では166分か

かりましたが、本機を用いた収穫時間(青ねぎのコンテナおよび収穫機の積降・運搬に要する時間は除く)は、収穫機による作業では77分となり、54%削減されました。

本機を用いて掘り取った青ねぎは、鎌を用いた慣行の手収穫に比べ、根が残ることから、洗浄作業時に別途、根切り作業又は根切り付きの洗浄機による処理が必要となります。



図. 収穫にかかる作業時間(作業人員1名)



お問い合わせ先

生産技術研究室 農産研究課
☎0598-42-6359
中央農業改良普及センター
☎0598-42-6705

▼このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介いたします。

農業を営むすべての方に

農業経営資金

農業経営に必要な資金として
幅広くご利用いただけます

JAバンク 利子補給制度で
金利負担を軽減します

年1%
当初3年間
最大利子補給率

トラクター・ドローンなどの農業機械購入

栽培用ハウス建設

畜舎建設

農地購入

農業運転資金

その他農業経営に必要な資金

【取扱期限】2024年3月31日

※JAバンク利子補給制度によりお借入から3年後の応当日まで最大年1.0%の利子補給が受けられます

詳しくはお近くのJAバンクまでお問い合わせください

JAバンク三重 農業資金 🔍 検索

JAバンク 三重県下JA/JA三重信連